

Q 学校経営で大事にしてきたことは何ですか。

A 私が一番大事にしていたことは、『教職員集団の教育力』をどのように育み、充実させ、発展させるか』ということでした。教職員個々の力量を高めるための取組はもとより大事なことです。たとえば力量を高め、責任をもって自らの職責を果たそうとしていたとしても、教職員がそれぞれ、思い思い、バラバラに取り組んでいる学校現場では、大きな教育効果をあげることはできないと思われます。「学級王国」や「学年じまい」といわれる実態がありながら、何とか重大な問題事象がなければ、学校経営はうまくいっていると認識し、そのままに留まるならば、全ての児童生徒に望ましい教育を保障していることになるでしょうか。ましてや、「荒れ」といわれる生徒指導上の課題に直面したとき、その課題克服を果たせるでしょうか。結局個々の教職員や学年の責任に帰し、指導力が弱い教職員や学年を非難し合うような職場となる心配をはらみます。課題に立ち向かっても効果的な実践を生み出せないような学校現場を自らも経験しました。

大事にしたいことは、「教職員集団の教育力」に目を向けることです。教職員全員が、学級王国や学年じまいに陥らず、互いを尊重し合い、支え合い、切磋琢磨して、共に教育課題に立ち向かうという「なかま（集団）」で取り組んだときに発揮される教育の力は、個々の教職員の力量の単なる総和ではない、すぐれた教育効果を生み出すものです。

共通の目的・目標をもち、体制を整え、遠い見通しと近い見通しを明確にして、みんなで取り組み、みんなで実践を点検する過程と結果を共有する教職員のなかま（集団）を育てることこそが、学校経営で一番大事にすべきことだと思います。生命や人権尊重の教育も、規範意識を養う教育も、学習指導や生徒指導も、この「教職員集団の教育力」があつてこそ十分な教育成果を上げることができると考えます。PTAや地域との連携もしかりです。

そのためには、働きがいのある職場づくり、確かな共通理解を生む学校評価（総括）と年度始めの実践課題の設定、リーダーシップを明確にした校務分掌、力量を高め合う教職員研修などの実現に、工夫と努力を傾注することが大切だと思います。

校種

全校種